

## ベストミックス・インベストメント News Letter

2013年12月19日号

### ◇ 保険関連商品の採用でリスク分散

～伝統的運用資産に対する真の分散投資効果と、絶対リターン運用の両立を目指す～

我が国の年金資産は、日本株、外株、円債、外債を基本 4 資産とし、代替資産としてヘッジファンドや不動産関連商品を組み込むことによって分散投資を行ってきた。しかし、現在の資産配分あるいは金融商品の選択で、分散の効果を本当に実現できるのかという懸念を抱いている運用担当者も多いのではないだろうか。リーマン・ショックの記憶は今でも生々しいが、あの時は株式運用商品も債券運用商品も、先進国投資も新興国投資も、下落幅に違いはあっても、ほぼすべての運用商品の価格が下落した。株式運用商品と債券運用商品の両方に投資していたとしても望むような分散投資の効果は得ることができなかったのである。既に多くの投資家は、リスク分散していた資産間の相関が高い為、実は分散投資になっていなかったという側面を認識しだしている。何故、4 資産におけるリスク分散が困難かと言えば、資産を分散しても背負う経済リスクが同じだからだろう。即ち、経済が下降すれば世界の株価は下降するし、金利を低め誘導することを先進国会議で一緒に決めれば、円債も先進国債券のイールドは低くなるに他ならない。

では、経済リスクを背負わない債券はないのだろうか。

ご存知の方も多くなってきたが、保険関連商品は基本的には経済リスクをおわないものである。現在保険関連商品は、世界全体の市場規模は 16 兆円前後とそれほど大きな市場ではないが、年金資産が抱える経済リスクとは異なるリスクを加えることで、「リスクの分散」が享受できる運用商品で注目に値するものだ。

今回、我々が取り上げるものは保険関連商品の中でも、通常 CAT BOND と言われる災害ボンドで変動利付き社債だ。市場規模は直近で 1 兆 9 千億円程度。災害キャットボンドは、原則、経済リスクを背負わない代わりに災害リスクを背負うことになる。従って、従来の 4 資産とは相関が低くなる。

さて、具体的な説明の前に保険関連商品全体を整理しておこう。市場は生保系保険関連商品と損保系保険関連商品に大別できる。更に後者は、有価証券である災害ボンド大半をポートフォリオに組み入れるものと、災害ボンドに再保険や再々保険などの契約書を組み入れるものがある。流動性という観点から見ると生保系商品は解約制限期間などがあり、一般に契約後、数年間は解約ができない。また、損保系では、契約書面を加えることによ

当資料をご希望の方は、メールにてお問い合わせください。

メールアドレス：

[bestmix@bestmixinvestment.com](mailto:bestmix@bestmixinvestment.com)